

サステナビリティ



サステナビリティに関する詳細は、下記にてご覧いただけます。
<https://corporate.jp.sharp/eco/management/>

サステナビリティに対する基本的な考え方

シャープは、経営理念において掲げている「広く世界の文化と福祉の向上に貢献する」「全ての協力者との相互繁栄を期す」という創業以来の精神のもと、社会やステークホルダーからの期待や要請に応え、当社と社会の相互の持続的発展を目指すことをサステナビリティに対する基本的な考え方としています。

この経営理念・経営信条^{※1}を具体化するために、グループ企業の行動原則として「シャープグループ企業行動憲章」を、全ての役員・従業員の行動の規準として「シャープ行動規範」^{※2}を定め、周知徹底しています。

※1 経営理念・経営信条は、下記にてご覧いただけます。

<https://corporate.jp.sharp/info/philosophy/>

※2 シャープグループ企業行動憲章、シャープ行動規範の詳細は、下記にてご覧いただけます。

<https://corporate.jp.sharp/info/charter/>

サステナビリティ戦略と推進体制

シャープは、サステナビリティに対する基本的な考え方に基づき、2015年9月に国連で採択され、企業へも大きな期待が寄せられている持続可能な開発目標 (SDGs) の達成へ貢献することを中長期ビジョンに据え、取り組みを進めています。

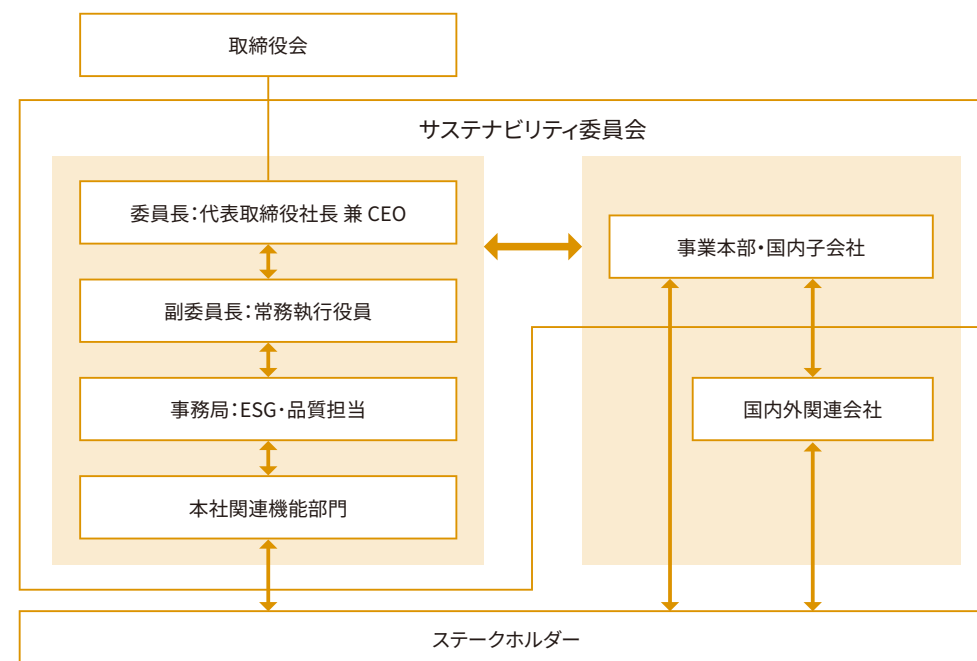
2018年度には、この中長期ビジョンの実現に向けて「事業や技術のイノベーションを通じた社会課題の解決」と「サステナブルな事業活動による社会・環境に対する負荷軽減」を両輪として、SDGs達成に向けた貢献を目指すことをサステナブル経営の基本戦略として取り組みを加速しています。



シャープは、これらの戦略を実行施策レベルに落とし込み、PDCAサイクルでマネジメントしていくため、代表取締役社長 兼 CEOを委員長とし、経営幹部、環境・人事・調達などの本社機能部門、事業本部・子会社などで構成する「サステナビリティ委員会」を設置し、ビジョンや方針の徹底、各種施策についての審議・推進、社会課題に関する最新動向の情報共有などを実施しています。また、重要な方針や決定事項については、取締役会に報告しています。

サステナビリティマネジメント推進体制

(2023年8月現在)



サステナビリティ

マテリアリティ(重要課題)

SDGsやパリ協定*などのグローバルでの社会課題解決を目指した国際的な中長期目標が相次いで発表され、またグローバルサプライチェーンにおける強制労働などの人権問題への関心が集まる中で、企業のサステナビリティ取り組みへの期待はより一層高まっています。

こうした背景から、グローバルな社会課題解決への貢献とシャープグループの中長期的な成長との両立の視点から、サステナブル経営推進のためのマテリアリティ(重要課題)を特定し、取り組みを進めています。

マテリアリティの特定に当たっては、当社の経営方針・事業戦略に加えて、国連グローバル・コンパクト、SDGs、RBAのビジョン・ミッションなどの国際的なガイドラインや原則、様々なステークホルダーからの意見や期待、事業活動がステークホルダーに及ぼす影響、ESGレーティング・格付機関などによる評価結果などを踏まえ、マテリアリティを抽出しています。

マテリアリティの特定プロセス



抽出したマテリアリティは「ステークホルダーからの期待度」と「シャープグループとしての重要度」という2つの観点でマッピングし、全社レベルで優先的に取り組むテーマを「サステナビリティ施策」として決定しています。

各事業本部・子会社は、施策ごとの目標・GOAL、評価指標(KPI)、実行計画などを設定し、半年に一度開催される「サステナビリティ委員会」において、実績や取り組み状況のレビューを行っています。

2023年度全社サステナビリティ施策

サステナビリティ施策	貢献するSDGs
製品の省エネルギー化の推進	7 再生可能エネルギーを拡大し、気候変動に対処する、12 つくばる製品・つくる責任、13 気候変動に具体的な対策を
製品・包装材のバージンプラスチック使用量の削減	8 豊かになる仕組みをつくる、12 つくばる製品・つくる責任、14 海の豊かさを守ろう
持続可能な製品の創出	7 再生可能エネルギーを拡大し、気候変動に対処する、12 つくばる製品・つくる責任、13 気候変動に具体的な対策を
事業活動に伴う温室効果ガス排出の削減	7 再生可能エネルギーを拡大し、気候変動に対処する、9 産業と資源効率を高め、持続可能な消費をつくる、13 気候変動に具体的な対策を
事業活動に伴う廃棄物排出の削減	6 安全な水とトイレを世界中に、9 産業と資源効率を高め、持続可能な消費をつくる、12 つくばる製品・つくる責任
国内外自社工場のESGリスクの低減	1 貧困をなくそう、3 すべての人に健康と福祉を、5 ジェンダー平等を推進する、6 安全な水とトイレを世界中に、7 再生可能エネルギーを拡大し、気候変動に対処する
サプライチェーンのESGリスクの低減	8 豊かになる仕組みをつくる、10 人や国の不平等をなくそう、12 つくばる製品・つくる責任、13 気候変動に具体的な対策を、16 平和と公正な社会を築こう

※ 2015年にパリで開催された第21回気候変動枠組条約締約国会議(COP21)で採択された、気候変動抑制に関する多国間の国際的な合意協定。世界の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求することが掲げられている。